

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4272000268
法人名	有限会社 栄寿会 グループホーム ふるさと
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地	長崎県対馬市上対馬町泉1 6 3 5 番地 (電 話) 0920-86-3002
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 1月17日

【情報提供票より】 (平成19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤1人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造 造り	
	1階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (11月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性 1名	女性 8名
要介護1		名	要介護2 3名
要介護3	4名		要介護4 2名
要介護5		名	要支援2 名
年齢	平均 84歳	最低 72歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	離島医療圏組合 上対馬病院、久富歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、周りを海にも山にも面しており、自然豊かな環境の中にある。特にホームの後方にある山は防風の役割もあり大きな強みとなっている。「目くばり、気くばり、心くばり」の運営理念をもとに細かに現場への落とし方が検討されており、文書化がなされている。ホーム内は、隅々まで清掃が行き届いており、清潔感があり居心地が良い。職員は明るく元気で、利用者に敬意をもって接し、安全面を第一に支援する事が出来ている。代表者は、培ってきた地域の方や市町村関係者とのネットワークを活用し、連携を行い、よりよい介護サービスの向上とホームの地域の中での役割作りを貢献している。台風時には、代表者やケアマネージャーが臨時的にホームに入るなど、利用者の安全を第一に考え柔軟に対応している。食事は、職員の中に栄養士がいるため、バランスの良い食事となっており、味や食べやすさについては職員全員で検討し、より食べやすくおいしいものになっている。今後も、職員が皆で協力し合い、それを代表者が支援し、よりよりホームとなっていく事が期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善課題については、全職員で話し合い、改善に向けて検討を行っており、改善計画シートの作成がある。段階的にはあるが改善がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は年に1回、介護サービスの原点に戻り、見直す機会と考えており有効的に活用しようという意識は見られる。今後は、自己評価に職員が直接的に取り組む事が出来るような体制作りが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、今までは、グループホームの近況報告、外部評価について、他ホーム視察、災害対策、緊急対応等の内容が討議されている。討議の結果、実現がなされた案もあり、推進会議の活用に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の意見や苦情は、主に面会時に抽出し、検討を行い、より良いサービス向上へ繋げている。しかし、意見や苦情の数が少ない事から抽出方法やホーム側からの情報提供手段については再検討を期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	民家と離れた場所にホームが位置しているためなかなか地域との交流が難しい中、交流する方法を探し、行事参加への参加に努めている。また、事業所の消防訓練時には、消防団の参加受入及び近隣の住民に参加を呼びかけ、地域の一員として認識してもらえるように積極的に働きかけを行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「目配り、気配り、心配り」というグループホーム独自で作った理念がある。また、この理念をサービスの中でどのように活かしていくかを具体的に文章にしている。設立時から地域と人のネットワーク作りを行い、地域密着型のサービスを意識しながら現場へ落とせるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については毎朝のミーティングにおいて全職員で確認を行うほか、ホーム内の見やすいところに掲示されており、いつでも誰もが確認できるようになっている。職員は理念をもとに日々従事している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民家と離れた場所にホームが位置しているため、なかなか地域との交流が難しいが、夏祭り、文化祭、運動会等の行事、敬老会など、地域の行事への参加や、ホーム行事への参加の呼びかけ等努めている。また、事業所の消防訓練時には、消防団の参加受入及び近隣の住民に参加を呼びかけ、地域の一員として認識してもらえるように積極的に働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の改善項目については、全職員で話し合いを行い、改善計画シートを作成し、改善に向けての検討が行われている。また、職員は外部評価を実施する意義やWAMNETの内容についても理解している。しかし、職員に時間的な余裕が無いという事で自己評価の職員全員で取り組むというところまでには至っていない。	○	今後は、自己評価に職員も直接的に関わる事が出来るように業務の体制を整え、分担を行いながら取り組む事を期待する。

グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については運営要綱が定められており、利用者代表、利用者の家族代表、市町村役場の職員、地区の代表者等が参加している。2ヶ月に1回開催されており、今までに4回開催されている。具体的な議題内容としては、ホームの近況や外部評価についての報告、他ホーム視察や災害対策、緊急対応についての検討が行われており、議事録にて確認が出来る。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは情報交換や相談など日頃から密に連絡を取っており連携に努めている。現在、市からの要望も踏まえ通所介護サービスの取り組みも検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族が月に一回は面会に来られるため、その際に利用者の近況報告や預り金の出納報告を行っている。また、必要に応じて、電話連絡を行っている。しかし、以前行っていた文書による報告を休止するなど利用者の生活の様子を家族等へ伝えるものが少ない。	○	実際はいろいろな行事への参加に取り組んでいるが、利用者の日々の生活感が表面的には見受けにくい。以前、行われていたような文書による報告や個人情報の保護に気をつけながら写真を使用した報告(掲示やアルバム)を行うといったように具体的な報告方法を検討する事を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は玄関口に意見箱を設置してあったが利用がないという事で現在は無い。また、訪問者の誰もが見てわかるように、例えば意見や苦情の受付のフローチャートの掲示がなされておらず、第三者委員の重要事項説明書への記載が無い(外部機関の窓口記載はある)。積極的に家族より意見を抽出する仕組みを検討する必要がある。	○	家族への利用者の近況、情報提供が消極的になっている。個人情報の取り扱いに充分に気をつけながらより積極的な情報の開示を行い、家族からの意見を抽出出来るような仕組み作りを行っていく事が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代には引継期間を設けており、家族への説明も行っている。日頃から利用者のホームでの生活状況を細かに記録しており、新しく採用した職員も情報を共有し利用者の生活に支障が起きないように対応できる。		

グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会も少なく、研修スケジュールの作成までには至っていないが、県や社会福祉協議会主催の研修会には順番を決め参加している。また参加出来なかった職員へは、ミーティング時や復命書の回覧等により報告を行っている。職員は介護福祉士等の資格取得に向けても意欲をもっておりホームとしても出来るだけ支援するよう努めている。	○	職員の段階に応じた外部研修及び内部研修を計画し、また、職員に研修参加の時間を与える事ができるような体制を作っていく事が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流は、運営推進会議の中で行われた他ホーム視察以外には、回数が少なく職員からも他のホームとの交流が出来ればとの要望がある。また、地域のホーム同士のネットワーク網は、現在、連絡協議会の設立を踏まえ検討中である。	○	個人情報の問題、距離がやや離れているという問題等、ネットワーク作りの支障となるものが多くあるが、実現に向けて積極的に働きかけを行っていく事を期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申込があった場合は、迎えに出向きホームに来てもらうなどし、家族から利用者の生活習慣や生活歴等の情報収集を含め話をしている。また希望があれば体験入所を受け入れることもでき、スムーズなホームでの生活移行が出来るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、見守る体制を維持しながらも利用者との信頼関係の構築に重点を置き生活を共にしている。具体的には、食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ、草取りなどが挙げられる。接するときには、職員は尊敬の念を大切にし、ありがとうという感謝の言葉をもらった時に喜びを感じるというようにお互いが支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との会話や生活の様子から本人の希望や意向を把握するように努めている。利用者の意思表示を汲み取る事が困難な場合は、家族からの聞き取りも行っている。具体的には、自宅への帰省や墓参り、ドライブ等が挙げられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に職員や利用者及び家族の意見を踏まえ、介護計画の作成を行っている。作成した介護計画書は家族等へ説明を行い、署名、押印をもらっている。これらの書類は、職員がいつでも確認できるよう整理、保管されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度見直しが行われている。利用者に大きな変化があったり、職員同士での話し合いの中、変更の必要があると判断された場合は、随時、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族からの要望に合わせ、通院介助や買い物、外出(散歩、畑)、外泊(実家)、理美容院への送迎支援に努めている。		

グループホーム ふるさと


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、利用者や家族の意向に沿い、入居前からのかかりつけ医の受診支援を行っており、家族同行となっている。定期受診については、ホームの協力医療機関との連携も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ重度化・終末期の利用者に対するホームの方針は、検討段階にあり文書化するまでには至っていない。	○	今後、家族等から、ホーム内で終末期を迎えさせてあげたいという要望が出てくる事が考えられるため、それに向けた体制（終末期に関する方針の文書化や契約書の整備、スタッフの対応等）の準備について検討がなされる事を期待する。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の守秘義務については、職員から誓約書を取り徹底している。職員は利用者の尊敬の意を持って接し、言葉かけや記録等の中でもプライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、起床など大体の一日の流れは決まっているが、本人の希望とペースを尊重し支援している。例えば、通院途中で突然買い物に行きたいという要望があった場合にも柔軟な対応を行うなどしている。		

グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲で、食事の下準備や後片付けに参加してもらっている。また、食前には嚥下体操を行い、事故の防止に努めている。職員は利用者と一緒に同じものを食べながらサポートを行っている。実際、利用者の笑顔や笑い声が見聞き出来、食事を楽しんでいる様子であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴の曜日、時間帯は決まっているが、利用者の希望を優先して、柔軟な対応を行っている。希望があれば足浴も行っている。入浴は必ず、1人ずつ、職員が2名で対応しており安全面に注意を払っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、アセスメントや日々の記録から、利用者の趣味や過去の経歴等を把握し、状態に合わせて日々のケアに活かしている。例えば、洗濯物たたみ、カラオケや紙折り等が挙げられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向や体調に応じて、行事参加のための外出だけでなく、グループホーム付近の散歩や買い物、ドライブなどの支援を行っている。車椅子の利用者でも同様である。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、非常口共に鍵はかけていない。利用者の外出が自由なため、1人でふと出ていく場合もあるが、玄関近くの事務室から玄関口が良く見とれる事と、地域の方の協力を得るなどし対応している。		

グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署参加の防災訓練、月1回地域の消防団等の協力を得ながらの訓練を行っている。訓練には地域の人々へ参加呼びかけを行っている。また、緊急時のマニュアルを備えてあり、フローチャートを見ながら職員の誰もが対応できる。台風時には、夜勤勤務の人数増加を行うなど、柔軟性がある。ホームの裏側には、防風にもなる山がある事も大きな強みとなっている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士の資格保持者がおり、1日の献立は、栄養バランスやカロリー、量を考慮した上で作成されている。また、利用者個人ごとに食事摂取量、水分摂取量を記録している。		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清掃は隅々まで行き届いており清潔感がある。事務室の窓口や屋根側への吹き抜けの作りなど、日本の文化的で家庭的な共用空間作りに努めている部分が見受けられる。音や光の強さも適切である。玄関の外のスロープは、家族の意見から実現されたもので、利用者が居心地良く過ごせるように努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、和室の畳の部屋と洋室の部屋とがある。利用者が入所以前から使用していたものの持ち込みは自由である。しかし、本人の希望により持ち込みの少ない方もいらっしゃる。こういった場合は、利用者が製作した手芸等の作品、家族の写真が飾るなどし居心地よく過ごせるような空間作りに努めている。		

※  は、重点項目。